

事業所職員向け

児童発達支援自己評価表

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	5	1	・児童保護者がそれぞれ5人以上いる場合、十分なスペースがないと感じる。(いいえ)
	2	職員の配置数は適切であるか	6		・児童発達責任者と除き、4人(はい)
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6		・視覚情報を使い、それぞれの特性に合わせて参加しやすい工夫をしている。(はい) ・PECSやスケジュール等、視覚的な支援ツールを使用し利用者の障害特性に配慮している。(はい)
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	6		・毎朝清掃している。(はい) ・フローリングとマットで空間を使い分けている。(はい) ・アルコール消毒液も常備している。(はい)
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6		・常に児童について情報共有が行われている。(はい) ・療育の結果や効果を踏まえて目標設定と振り返りを随時行っている。(はい)
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6		・保護者向け評価アンケート実施。(はい)
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6		・H30年度、保護者向け評価、自己評価、自己評価シートを掲載している。(はい)
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		6	・第三者評価は行っていない。(いいえ)
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6		・都度フィードバックを受けることができる。(はい) ・OJT(日々の業務の中におけるSV、シニアセラピストからのトレーニング)や外部研修への参加(はい)
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	6		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		6	・海外のエビデンス・ベースのアセスメントを使用。(いいえ) ・標準化されたアセスメントツールは使用していない。(いいえ)
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6		・必要に応じて家庭訪問(家族支援)、保育園、幼稚園への訪問(地域支援)を行う。(はい)
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	6		・チームで意見交換を常に行っている。(はい)
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6		・毎月新しいプログラムを実施。(はい) ・季節の行事に合わせて、活動を決めている。(はい)
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	6		・個別と集団の目標は混在しているが、あえて分けるとすると個別の活動の目標…聞き手、話し手、模倣等 集団の活動の目標…活動に参加する、口頭の指示で丸イスに移動する 等。(はい)
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6		・頻りに打ち合わせをしている。(はい) ・特別時間が決まっているわけではないが、毎回行われている。(はい)
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6		・毎回職員間で振り返りを行っている。(はい) ・特別時間が決まっているわけではないが、毎回行われている。(はい)
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6		・毎回必ず記録を取っている。(はい) ・細かく具体的な記録を取っている。(はい)
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6		・6ヶ月に一度モニタリングを行っている。(はい) ・半年。(はい)	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6		・モニタリング・個別支援計画。(はい) ・6ヶ月に一度、ひまわり教室で担当者会議がある。他のケースも電話、書面などやりとりしている。(はい)
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	6		・園を訪問したり、相談機関と電話したり、随時連携している。(はい) ・サービス提供中に随時行っている。(はい)
	23	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6		・必要に応じて行っている。(はい) ・希望に応じて。(はい)
	24	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6		・必要に応じて行っている。(はい) ・希望に応じて。(はい)
	25	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	1	・小児救急、強度行動障害、他、研修に参加している。(はい)
	26	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	5	
	27	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	6		・協議会に参加している。子ども部会に参加している。(はい)
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6		・随時行われている。(はい)
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	6		・保護者が職員の子どもへの対応を直接見ている。慣れてきたら保護者も指導に参加する。スタッフはそれに助言することがある。また、家庭での悩みをいつでも相談できる機会がある(ペアレント・トレーニング)。(はい)
保護者への説明責任等	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6		・契約時に行っている。(はい)
	31	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	6		・個別支援計画を作成し、保護者に説明して同意を得ている。(はい)
	32	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6		・随時行われている。(はい)
	33	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	5	1	・父母の会は存在しないが、基本的に子どもと一緒に保護者も参加する形でサービスを提供しているため、保護者同士の連携が取れている。(はい)
	34	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6		
	35	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5	1	・毎月課題シートを作成し、説明の後、渡している。(はい)
	36	個人情報の取扱いに十分注意しているか	6		・鍵のかかるキャビネットに個人情報が含まれる書類が収納されている。(はい)
	37	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6		
	38	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	6		
緊急時等の対応	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	6		・マニュアルあり。(はい)
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6		・毎月避難訓練を実施している。(はい)
	41	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	6		・問診表や初回契約時に既往歴について確認する。(はい)
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5	1	・事故報告書のファイルが存在する。(はい)
	43	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6		・虐待防止マニュアル(はい)
	44	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	1	5	・児童発達支援計画に、身体拘束についての記載はない。(いいえ)

(保護者等の皆様へ)

この児童発達支援評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所を利用しているお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」、「わからない」のいずれかに「○」を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いい え	わからない	ご意見
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	3	5			・午前や昼など人数が少ないクラスの際は良いが、夕方のクラスのように人数が多いときは狭いのでは?と思う(どちらともいえない) ・でも引越してから前よりは狭くなりました(はい) ・人数が多いと少し狭く感じる時もあります(どちらともいえない) ・せまくなった(どちらともいえない)
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	7	1			・配置数や専門性が日によってばらつきがあると思う。どうしても新しい先生達はまだ慣れない部分もあると思うので、細やかな指導でプロレベルにしてあげてほしい(どちらともいえない)
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7	1			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8				・移転して狭くはなりましたが、家庭に近い環境が子どもにはとても合っていると思います(はい) ・いつもきれいに片付けられています(はい)
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>児童発達支援計画*2</u> が作成されているか	8				
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	8				
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	8				
	8	活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	8				・工作の種類が多さは高くほどで、感服しています。季節ごとのイベントも楽しいです。ステップアップするために課題を教える等対応してもらっています(はい)
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか			7	1	
10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	8					
11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	6			2	・そうだったかもしれませんが忘れました。でもいつも丁寧に対応してくれます(わからない)	

保護者への説明等	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング*4等）が行われているか	6	2				・質問、疑問に的確にわかりやすく説明、助言を頂けるので、家庭での対応に困ることが少なくなりました。（はい）
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	8					
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8					
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか			8			・活動や会はありませんが、子どもの活動中に他の保護者の方と情報交換ができる環境です。（いいえ） ・保護者が集まって情報交換できるような勉強会があったら楽しそうだと思います（いいえ） ・教室主催であったら参加したいです（いいえ）
	16	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	7	1				・質問、疑問に的確にわかりやすく説明、助言を頂けるので、家庭での対応に困ることが少なくなりました。（はい）
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	8					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	2	3	1	2		・翌月のテーマや活動内容をプリントで配ってもらえるとうれしい（いいえ）
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	8					
	非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	6	1			1
21		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6	2				
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	6	1			1	・子どもの意思疎通が困難なため、どう思っているか不明なため（わからない）
	23	事業所の支援に満足しているか	8					

*1 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

*2 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

*3 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

*4 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

職員による自己評価

A 環境面
 利用定員・職員配置等は適切である。
 自己評価、保護者向け評価による業務改善の内容をホームページに掲載している（H30年度）。

B 児童への支援内容
 療育の結果や効果を踏まえて目標設定と振り返りを随時行っている。また、視覚的な支援ツールを使用し利用者の特性に配慮している。
 海外のエビデンス・ベースのアセスメントツールを使用して分析しているが、標準化されたものではない。

C 関係機関との連携
 必要に応じて家庭訪問、保育園、幼稚園への訪問を行っている。また、小児救急、強度行動障害等の研修や、協議会、子ども部会に参加している。
 利用者が障害のない子どもと交流する機会は少ない。

D 保護者への説明責任・信頼関係
 利用開始時に運営規定、利用者負担について説明している。
 個別支援計画を保護者に説明し、6ヶ月に1度モニタリングを行い、同意を得ている。
 保護者からの子育ての悩み、申し入れに対しては、サービス提供中に随時対応している。

E 非常対応
 毎月、避難訓練を実施している。

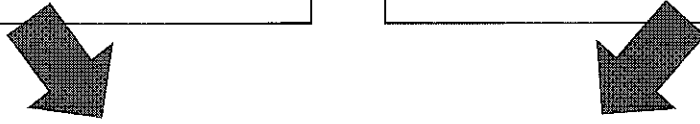
保護者による評価

A 環境面
 人数が多いと少し狭く感じる時もある。
 配置数や専門性が日によってばらつきがあると思う。どうしても新しい先生達はまだ慣れない部分もあると思うので、細やかな指導でプロレベルにしてあげてほしい。
 移転して狭くはなったが、家庭に近い環境が子どもにはとても合っていると思う。
 いつもきれいに片付けられている。

B 児童への支援内容
 工作の種類は驚くほど多く、季節ごとのイベントも楽しい。
 ステップアップするたびに課題を変える等、対応してもらっている。
 質問、疑問に的確にわかりやすく説明、助言を頂けるので、家庭での対応に困ることが少なくなった。
 利用者が障害のない子どもと交流する機会は少ない。

C 事業所からの情報発信
 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定等を保護者に対して発信されていないと感じる。
 父母の会や活動はないが、子どもの活動中に他の保護者の方と情報交換ができる環境である。
 保護者が集まって情報交換できる場があれば参加したい。

D 非常対応
 避難訓練が実施されている。



事業所内での分析

【共通点】

- ・児童への支援内容に満足している
- ・活動に保護者も参加することにより、家庭での対応に活かすことができている
- ・随時、子育ての悩みを相談する事ができている
- ・運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされている
- ・障害のない子どもと関わる機会は少ない
- ・父母の会は存在しない

【相違点】

- ・人数が多いとき、狭く感じる
- ・保護者が集まって情報交換できる会があれば参加したい
- ・定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定等を保護者に対して発信されているかどうか分からない

分析・検討してみる…

事業所の強み

- ・多彩な活動プログラムがあり、児童発達支援計画に沿った支援が行われている
- ・日頃から児童の状況を保護者と伝えあい、育児に関する助言等の支援が頻繁に行われている
- ・児童への支援に対する保護者の満足度が高い
- ・教室での療育に、保護者が参加することにより、ペアレントトレーニングがなされている。(教室で親が見たこと、やったことが、家庭において役立っている。)

事業所の改善点

- ・移転後、以前の事業所と比べてスペースが狭くなったため、児童が5人以上になるクラスではとくに狭く感じられる
- ・活動概要や業務に対する自己評価の結果等の情報を定期的に発信しているが、保護者への周知が行き届いていない

事業所の改善への取り組み

- ・十分なスペースを確保するため、可能な限り1クラスあたりの児童が6人以上にならないよう調整する。
- ・活動概要や業務に対する自己評価の結果等の情報を発信する際、保護者への周知の仕方を改善する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今回、事業所職員・保護者双方の評価を比較することで、互いの認識の違いが明らかになった。
この結果を生かして、今後よりよいサービスを提供できるよう努めたい。